

	1学期の成果	2学期以降への課題	具体的な改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○物語文を読んで、登場人物の行動や出来事の大体を捉えることができた。 ○登場人物の気持ちを想像して、声の大きさや速さを工夫して音読することができた。 ○朝読書や読書週間の活動などを通して、本に親しむことができた。 ○体験したことから書くことを見付け、「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」という出来事と、自分の気持ちを書くことができた。 ○友達の記事に対して感想を伝えることができた。 ○大事なことが伝わるように、特徴や順序を意識して話すことができた。 ○説明文を、時を表す言葉を見付け、時間の順序を考えながら読むことができた。 ○身近な動植物を観察し、メモを基に観察記録文を書くことができた。 ○想像を広げながら楽しんで物語を読むことができ、考えたことや感じたこととの交流ができた。 ○「初め」「中」「終わり」の構成を理解し、メモを基に文章を書いたり話したりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えた音読の工夫を友達に伝えたり、友達の工夫について認めたり、助言したりできるようにする。 ○みどり小読書ノートを活用しながら、いろいろな本に親しみ、読書の幅が広がるようにする。 ○出来事について伝えたいことが明確になるように、簡単な構成や文と文の続き方を考えられるようにする。 ○メモを取るときに、大事なことは何かを理解できるようにする。 ○丁寧に観察したり、観察したことをより詳しく書けるようにする。 ○筋筋をまとめることができる。 ○句読点の打ち方やかぎの使い方に注意しながら、文章が書けるようになる。 ○正しい筆順、字形で漢字を書き、文や文章の中で使えるようにする。 ○順序を考えながら、声の大きさや話し方に気を付けて進んで話せるようにする。自分の伝えたいことが、相手に伝わる発表ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と音読を聞き合ったり、工夫を伝え合ったりする場を設定する。 ○学習と関連した本の紹介や読み聞かせを通して、いろいろな分類の本に触れさせる。 ○ICT機器を活用してモデル文を提示したり、作文メモや構成メモを用いたりして、文章の書き方を指導する。 ○特に大事なところはどこかを抑え、繰り返しメモを取る練習をする。 ○友達と読み合い、内容や表現の良いところを伝え合う場を設定する。 ○時を表す言葉や、「けれど」「しかし」などつなぎ言葉を手掛かりに、主な出来事を捉えられるように指導する。 ○表記や文法上の間違いに気付けるように、自分で読み返したり、互いに読み合ったりする場面を設定する。 ○毎日の家庭学習や定期的な小テストで、漢字の習熟を図る。 ○一人一人が発表したり、それを聞いて質問をしたりする時間を設ける。声の大きさや間の取り方、抑揚のつけ方などのよい発表の視点を示し、お互いの発表のよさを伝え合う場を設ける。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○データを整理する観点に着目し、身の回りの事象についてグラフや表に整理することができた。 ○2位数の加法・減法の筆算の仕方について理解し、繰り上がりや繰り下がりに気を付けて計算することができた。 ○長さに関心をもち、自分で長さを測ったり、表したりすることができた。 ○数カードを活用し、3位数の読み方や表し方を理解することができた。 ○長さの学習を生かして、かさの表し方を考えることができた。 ○少人数指導により、課題に意欲的に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グラフと表のそれぞれのよさを生かし、生活や他教科に活用していくようにする。 ○絵や図、式、タイトル、ブロック、数の分解などを用いて自分の考えをノートに分かりやすく表せるようにする。また、それを説明できるようにする。 ○問題の意味を考えて正しく立式し、計算できるようにする。 ○かけ算では、九九を覚え、計算が素早くできるようにする。 ○時刻や時間の理解を深め、生活に生かすことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習したことを身近なことに活用する場面を多く作る。 ○友達と考えを交流し合う活動を通して、様々な表現の仕方があることに気付かせる。 ○考える時間を十分に確保する。 ○九九は家庭学習も含め、反復練習と暗唱テストの時間を設け定着を図る。 ○日常生活の中で時刻や時間を意識した生活を送ることで、時刻や時間について慣れ親しむ定着を図る。 ○ICT機器を活用し、いろいろな考えを交流する活動を通して、自分の考えや、相手の考えの良さや相違に気付かせる。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ○学校案内の冊子を作成することにより、2年生としての自覚をもつことができた。 ○観察カードを書くことで、様々な植物の成長を記録することができた。 ○野菜を育てる活動を通して、植物の成長の様子が分かり、収穫の喜びを体験することができた。 ○ICT機器を活用して、虫を観察することができた。 ○おすすめを紹介する活動を通して、自分の住む地域の様子や自然に関心をもちることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○季節によって自然の様子に変化していることに気付くことができるようにする。 ○地域のよさやすばらしさ、自分との関わりに気付き、地域に愛着をもつことができるようにする。 ○身近な人々と関わることに気付き、進んで触れ合い、交流できるようにする。 ○身近にある物を使って、遊びを創り出すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1学期の様子と比べて、季節の変化を予想し、季節毎の自然の特徴に気付かせる。 ○生活科見学や町探検では、自らあてを決め、体験的に学べるように活動を工夫する。 ○発見したことや考えたことを、ICT機器等を活用して友達同士で伝え合う活動を多く取り入れる。 ○身の回りのものを使った遊びを、友達と楽しみながら体験できる場を設定する。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽に対する興味・関心が深まり、音楽活動を楽しむことができた。 ○曲に合わせて、楽しく拍をとったり、リズム打ちをしったりして身体表現をすることができた。 ○電子キーボードでリズムと指遣いに気を付けて演奏することができた。 ○リズム遊びを通して、リズムリレーをしたりペアになってリズム打ちをしったりして楽しくリズムについて学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○表現や鑑賞の学習を通して、旋律やリズムが繰り返される音楽の面白さに気付くことができるようにする。 ○拍ののってリズム唱したり、手拍子や打楽器でリズムを打ったりする表現活動の楽しさに気付けるようにする。 ○電子キーボードやその他の楽器で、楽譜を見て演奏することができるようにする。 ○正しい音の高さに気を付けて歌うことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を活用して、リズム・旋律及び速さ、強弱、歌声に気を付けて曲を聴き、曲の雰囲気を感じさせる。 ○階名で反復のある曲を歌ったり、打楽器等の音を聴き取ったりする活動を取り入れる。 ○音符や休符の長さの違いに気付いたり、楽譜を見て演奏したりすることに慣れ親しむ。 ○伴奏や友達の声を聴いて合わせて歌うことで、音の高低に気を付けて歌う。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ○ものの形や色に気を付けて絵を描くことができた。 ○表したいことを見付け、身近な材料を使って表現することができた。 ○友達の記事の良いところを見付けたり、美術作家の作品を鑑賞したりして、感想をもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○材料の形や色からイメージを広げ、必要な材料を工夫して選び、自分の思いを表現することができるようにする。 ○造形活動に必要な道具の使い方を身に付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な表現方法を紹介し、自分の思いに合った表現方法を選ぶようにする。また、制作過程で自分の思いを伝え合ったり、友達のよい表現方法を取り入れたりする機会を設ける。 ○はさみ、のり、テープ、カッターナイフ、ステープラー、筆などの効果的な使い方を活動前に確認する。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ○固定遊具遊びでは、逆さになったり、体で支えたりして、いろいろな動きを楽しむことができた。 ○体づくりの運動遊びでは、バランスをとって体を動かしたり、物を使って力試しをしたりするなど、いろいろな動きを楽しむことができた。 ○かけっこ・リレー遊びでは、バトンを使った活動をすることができた。 ○マスクを外しても大声で話すことなく、安全に気を付けて、楽しく活動できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の動きのよさを見付けられることができるようにする。 ○遊び方を工夫し、考えたことを友達に伝えられるようにする。 ○勝敗を受け入れ、場の安全に気を付けられるようにする。 ○運動遊びに進んで取り組み、だれとでも仲良く運動をすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達同士でICT機器等を使って、見合ったり教え合ったりして互いに関わり合いながら学習させる。 ○振り返りの時間を設け、発表したり、学習カードに記録したりする。 ○勝敗を受け入れることが大切であることを話し、安全に配慮した場の設定を工夫する。 ○チームで作戦を立て、取り組む活動を取り入れる。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○教材文の主人公の気持ちを考えることを通して、道徳的価値に気付くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習した道徳的価値と、自分の生活体験を結び付けて考えたり、生活に生かそうとしたりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を活用した効果的な導入や資料提示を工夫し、児童の興味関心を高め、一人一人が道徳的価値についてじっくり考えられるよう環境を整える。 ○話し合いの時間を十分確保し、友達の発言から自分の考えを整理する時間を取る。 ○自分の考えを基に書いたり話したりするなど、表現する機会を充実させる。